

令和2年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価 1（評価委員コメント記載 及びまとめ）

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策			
1. 教育活動	○教育理念・課程に沿った授業計画・実践をしているか	○「分かる授業」の実践。 ○シラバスを見直し再構築する。	⑤年度当初の講義導入時に学生にシラバス・授業計画を基に授業の目標・目的・進捗計画等を伝えられたか。	令和元年度 B(2. 5)	B (3.1)	●昨年度の改善策である「教務部が一括して製本して学生へ配布する」を計画して、各教科担当者の作成遅れが無いように促し実践できた。結果、導入し使用したとの意見がほぼ全数となり、教職員の意識改革としての「シラバス・指導計画事前配布」の成果はあったと判断する。しかし、本来の根本目的である「学生へ授業の目標・目的を浸透させる」にいたってはコメントもなく、教職員の意識を次の段階に向けていく。			
				令和2年度 B (3.1)		結果の考察・分析及び改善策 AO取り纏め資料とは別に、シラバス・授業計画を講義初日の導入時に必ず配布して、目標・目的を明確にしている。 ○近年、学生の勉学意欲等のせいにはしたくはないが、進捗の遅れが顕著になっている。資格試験出題傾向の高い項目にウエイトを置く講義形式にシフトしている。 BO年度初めてシラバスを使用しての年度計画を学生へ説明し授業を開始した。 ○初めて行う授業については学生に何が足りないかを模索し改善を図り授業を行った。 CO年度当初は例年とは違った授業計画を余儀なくされたが、中間報告時点では予定どおりの進捗となっている。 ○理解に時間を使う項目については、資料等の工夫をして授業展開を行っているので次年度の参考としたい。 DOシラバスおよび教科書の各自を使用し、単元変更時に説明を行い、学習内容の把握を実施している。 ○教科書通りの順序で授業を行はず、理解度の上がる順序に変更し学習内容への興味を向上させるよう取り組んでいる。 EO昨年同様授業開始時にシラバス及び授業実施計画を学生へ配布し、何を学び、どのように進めていくかを確認している。 FOシラバスを元に特に重要な部分（国家試験出題範囲等）や関連性の説明を行い担当科目の重要性を伝えた。 ○重要な部分をピックアップし、理解を深めるためにはどの順番で展開したほうが良いかを年度初めに計画した。			
				令和元年度 B(2. 8)		●全教職員ともキャリア教育について意識しているが、統一した見解で取り組んでおらず、教職員間の温度差は否めない。また、コメントからも「伝えている」で終わっており、その定着度合いを推し量る取り組みが行われていない。その取り組みを次年度の課題とした。 ●キャリア教育でもある「卒業生講話」も5年目を迎えるが見えてきた。そのため目標・目的・視点を見直すとともに、実施の主旨を再度考えての今年度の実施となった。しかし在校生へのメッセージであったはずの「約束と時間を守る」がクローズアップされることなく定着にも至っていない。実施が目的ではない。実施後の成果に目を向らせる組織作りが必要。			
				令和2年度 B (3.1)		結果の考察・分析及び改善策 AO企業担当者との意見交換等で収集した情報を、教員との共有後、学生に伝えてきたが、学生に伝える場面が確実に少なくなってきた。その分、教員へ情報を提供しているが、企業の思いや事例が、教員に浸透して学生に波及しているかは疑問を感じている。 BO実際際に体験した内容などを授業で話し、社会人としての心構えを伝えた。 ○キャリア教育の定着には繋がっていない感じじる。 CO日々進化する自動車の構造について情報を得る様に心掛け、卒業後の職務に関連づけた声かけを行っている。 ○学生の思考に沿った進路指導を行うことが自分にとっての次年度への課題となる。 DO授業開始前に、毎回就職活動について話を実施している。 ○科目ごとに将来の仕事を意識した内容を伝え、より実践的な知識（お客様への説明）を意識するよう指導を行っている。 EO整備士といつも職種に係わる情報を授業等で展開している。高い意識のまま社会に出られるよう継続指導を行っている。 FO授業と就職後の実作業との関連性を、具体例を挙げて説明することで意識向上を図っている。 ○朝や放課後の時間を使い進路について面談を行っている。			
				令和元年度 B(2. 7)		●自己評価がプラスに向いているので、今後も継続して取り組んで頂きたいと思います。 ○キャリア教育は継続していくことが大事。「卒業生講話」をうけて、どう思ったかをアンケートを取り分析してはどうだろうか。			
	学校関係者評価 ご意見・アドバイス等								
	学校関係者評価まとめ					●教育活動の向上は、教務部との連携を図りながら、今後も継続して取り組んで頂きたい。（次の課題を明確にした取り組み。）又、「学生のキャリア意識向上」が目的の実践が、行事の消化で終わっていては目的が達成したとは言えない。その成果を見極めて次につなぐ取り組みが必要。			
	2. 学習成果	○資格取得率向上を常に考え取り組んでいるか又 貢献しているか	○過去問題の教材研究を怠らない。 ○必須取得資格の未取得学生を常に意識した指導を行う。 ○現2年生の2級模試（12月期）において、担当した科目（1年・2年次に担当していた、又は担当している）のセクション平均点は6割を超えていた。	令和元年度 B(2. 5)	B (2.8)	自己評価総合的な課題・今後の改善策 ●11月期2回、12月期3回実施した模擬試験をもとに4セクションをガソリンとジーゼルに分け正答率を分析した。（）内は昨年度の値。 【2級ガソリン】エンジン：75%（64%）、シャシ：6.3%（56%）、工学：8.0%（69%）、法令：9.2%（78%）⇒ 全てのセクションで判定基準の6割を超えており、法令は9割を超えていたが、シャシは7割に到達しておらず安心は出来ない。正常進捗と判断。 【2級ジーゼル】エンジン：5.9%（49%）、シャシ：4.8%（54%）、工学：5.8%（43%）、法令：7.6%（57%）⇒ 法令以外で判断基準を下回っている。シャシの落ち込みが大きい。ガソリンに比較してジーゼルの進捗は問題である。指導方法の改善が至急必要。 上記から、9.0%を超える習熟セクションは、2Gの法令しかない。上記の分析を踏まえ、まずは担当教員が現状の分析をため学生個々の現状を把握して、その改善の方策を学科会で検討して組織に対応したい。			
				令和2年度 C (2.3)		結果の考察・分析及び改善策 AO「法令」の担当者として、11月期に2回、12月期に2回の合計4回の模擬試験において、2G平均4.6（9.2%）[昨年度は平均4.5（9.0%）、2D平均3.9（7.8%）]と目標はクリアしている。また、昨年度実績も超えているが、初出題がない模試でこの結果は納得できない。 BGガソリンとジーゼルにおいて差がある。アドバイスを行なながらジーゼルの理解度を向上させていく。 ○各学生の苦手箇所を把握し改善を図る。 CO今年度も他セクションよりも自分が担当している科目において理解度の遅れがあるので今後の挽回が必要である。 ○早い時期に6割を超える授業展開の工夫を行う。 DO担当科目において、6割を超えるセクションもあるが、さらに基礎となる1年次の知識の向上が必要を感じている。 EO授業より先に進んでいるセクションもあるが、科目的先生方へカリキュラムについての相談を行い、学生が理解しやすい流れで授業を進めもらっている科目もある。 FO工学セクションの平均点は6割超である。 ○点数に大きく影響する部分ではないが、次年度は1点の重要性も伝えていきたい。			
				令和元年度 B(2. 8)		自己評価総合的な課題・今後の改善策 ●昨年度、担任が業務責任者として企業関連業務の「計画」「訪問」「案内状」「お礼状」等を担当している場面が多くあり、サポート体制が機能しておらず、業務の停滞や遅れが発生した。その改善のため、業務の責任者は担任ではなくその業務の長としだはすであったが、業務の停滞や遅れはやはり発生した。結局、教職員間の「情報発信と共有」また「業務に組織で対応する」意識の欠如であることが判明した。ベースに「気づき合える環境」と「切磋琢磨する環境」両面の構築がなければ次年度も同じ事を繰り返してしまうと感じている。意識し合えるシステム作りを検討する。			
				令和2年度 B (2.6)		結果の考察・分析及び改善策 AO企業との友好な関係構築に努めるだけでなく、提案や改善も要望しながら、学生・学校の評価向上に勤めている。 ○業務窓口は基本的に担当せず、業務移行の観点からサポート業務に取り組んだが、引っ越しないと停滞する場面を目の当たりにして、業務移行の前段階だと痛感した。 BO定期指導で卒業生の状況を把握することで企業担当者への連絡は昨年度より多くなったと思うが就職に関しての話は出来ていない。 ○訪問される企業と面談し、学生の状況を伝え就職先出口の広さ確保を意識している。 CO企業が関係してくる1年生の行事について、担任と連携を行い企業担当者との打ち合わせを実践した。 ○企業実習等の巡回訪問にて、学生の良い部分がアピールできるように担当者との対応を行った。 DO企画業務と共に並行し、企業との連絡を積極的に行っている。 ○本校の学生募集への協力を積極的に実施していただけるように企業へ投げかけを行い、ご協力いただける企業が増えている。 EO1年生の行事である企業説明会や企業実習での室内・お礼にて積極的に企業様を訪問している。企業様の状況報告等も同時に実施している。 ○セミナー等で企業様が訪問した際、2年生の実習内容や取り組みについて情報提供を積極的に行っている。 FO1年生の行事は就職に影響する部分が多く、学生の評価にも繋がるため、円滑に進められるよう協力を得ながら事前指導から運営まで行う事ができた。 ○次年度はもっと早い時期から余裕を持って準備していく。			
				学校関係者評価 ご意見・アドバイス等		●企業との関係構築は出来てきていると思うが、行事に参加する企業が少ないのは立場上残念で申し訳ない。 ○自動車整備士資格試験の対策については、「復習」をどれだけ効果的にやったかに係っている。「復習」の大しさを学生各自に伝える。			
	学校関係者評価まとめ					●学校と企業とある一定以上の関係構築はできているが、企業が学校へ積極的に要望する関係までには至っていない。「ともに学生を育てる」意識が広まれば、企業の積極的な参画もなしえるのではないかと思うが。（内定学生に対して、資格試験を前にして11月頃から数回に分けた個人面談も確実に意識改革と合格率向上に繋がる） ●自己分析のため苦手箇所の割り出しを行わせる。見つけるための数多くの「過去問題チャレンジ」、苦手箇所把握しての「復習」の反復それが合格への自信にも繋がる。			

令和2年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価 2（評価委員コメント記載 及びまとめ）

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策
3. 学生支援	○学生と常日頃より良好な関係を築き、学習・進路・生活の支援を行なえているか	○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。	○学科会、学年会、推薦委員会等の開催や開催要望等を行い、学生の情報共有に努め、学生がより良く改善するための指導策教検討等に対して積極的に問題提起・発言・発案を行ったか。	令和元年度 C(2.3)	B (2.5)	●「学科会」の平常定例実施ができず、その影響が波及して多方面に支障を來した。懸案であった平常定例実施の方策を副科長からの提案もあり12月より再開された。今後の定期継続のため現状を注視していく。 ●先ずは全教員が”学生が主役”であるこの原点に立ち返り、入学してくる学生や保護者が「学校・教職員に求めていること（より良い職場、希望の職場への就職や確実な資格取得）」であることを再認識して即行動できる組織の構築を図っていく。そのためには教職員一人ひとりが「迅速な情報の発信と共有」が根幹にあること再認識する。
						結果の考察・分析及び改善策 AO学科会を平常実施する意思がないところから、意義を理解させて、学科会を平常化できるか方策を考え8ヶ月であった。手法を提案して副科長に発起人となって頂き、なんとか実施できている。組織としてあり得ない案件だと考える。 BO学科会が実施できずに教員のコミュニケーションがとれていらない。 ○学科会などを利用し学生情報の共有を図り改善していく。 CO進路指導について担任に任せてしまっている現状があり、サポート不足だと反省しているので相談を密にしていく。 ○各会の開催要望を進言できていない。情報共有の場が不足してしまったので今後は積極的な声かけを行う。 DO学生の状況変化を担任へ投げかけ、また指導アドバイスを行っている ○会議での発言を積極的に行い、改善案をなど発案している。 EO毎授業での学生の取り組みについて科目担当者へ聞き取りを行うようにしている。しかし、自らの発信が出来ていない。 FO次年度はもともとの学生の様子を発信していかなければいけない。 ○科会等を通じ定期的に学生の状況を発信していく。
				令和元年度 B(2.5)	B (2.5)	自己評価総合的な課題・今後の改善策 ●【2年生】：退学者なし：休学生1名[年度当初からの休学：学外の異性とのトラブル] 【1年生】：退学者1名[進路変更となっているが、学習意欲の欠如と学生生活不適応が原因] 休学者1名[自分を見つめ直し復学のための休学となっているが、学習意欲の欠如と学生生活不適応が原因] 休学者1名[年度当初からの休学：コロナウイルス感染拡大のためのとの理由] 1年生の退学・休学者について、事あるごとにあらゆる手段を尽くしたが改善させることは出来なかった。やれる手立てでは尽くしている。（担任は初任ではあるが、事前事前のフォローとアドバイスを繰り返しながら迅速に行動し、誠意ある指導と対応を行った。）
						結果の考察・分析及び改善策 AO教頭の即介入はしたくないが、情報発信と共に難がある現状を考え、教員への学生情報提供及び担任からの情報聞き取りと助言を直接担任と科長に積極的に行った。早期の面談、訪問、召喚を幾度となく繰り返し改善した学生もいるが、1名づつの休・退学者を出す結果となった。 BO何か気が付いた事は、学生にその場で声かけし注意し改善するようにアドバイスを行っている。しかし定着していないところがある。 ○授業の様子の報告は毎回は実施出来ていない。 CO1年生担任のサポート不足により、休・退学者を発生させてしまった。さらなる学生個々への自配りの必要性を感じた。 ○授業後の情報提供は行ったが、改善策等の話合いを行なう意識が低かったので改善していく。 DO学生への声掛けを積極的に行っている。 ○授業での学生の様子を担任へ報告するとともに、直接学生本人への指導も心掛けている。 EO運動や部活動等、授業態度に変化のある学生は即時面談を実施し、予備軍に入る前に指導を行っている。 ○担任として聞き取りを行うことは出来ているが、自らの発信を怠っている部分がある。 FO無断欠席等に対するはすぐに対応しては学生間訪問や保護者連絡を行い対応できた。学生と話す機会を多く持つよう心がけた。 ○次年度は退学者を目指していきたい。
	○学生への自配りを怠らず、退学防止に努めているか	○無欠席の目標を掲げ取り組む。 ○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。	○やむを得ないと判断（管理職判断）以外の退学者の発生は出でていないか。又、予備軍を適切に指導できているか。 ○科目担当者として、必ず毎回授業中の情報を担任へ自ら提供したか。	令和元年度 B(2.5)	B (2.5)	自己評価総合的な課題・今後の改善策 ●先生方が、入学してくる学生や保護者が学校・教職員に求めていることをより具現化して、「選ばれる学校となる」ための取り組みに感心している。そのための第一歩が「気付く事」。「気付き」「気付かせ」「気付き合える」事の重要性を全教職員が「共有」できれば、「情報を共有する場」の重要性に気付くはず。
						●先生方が、入学してくる学生や保護者が学校・教職員に求めていることをより具現化して、「選ばれる学校となる」ための取り組みに感心している。そのための第一歩が「気付く事」。「気付き」「気付かせ」「気付き合える」事の重要性を全教職員が「共有」できれば、「情報を共有する場」の重要性に気付くはず。
				令和元年度 B(2.7)	B (2.7)	学校関係者評価 ご意見・アドバイス等
						学校関係者評価まとめ
				4. 教育環境	B (2.8)	自己評価総合的な課題・今後の改善策 ●昨年度、管理体制の徹底を謳い「教材・機器・備品リスト」を利用した「今回の授業で、何をどれだけ使用する」等の中告を行い教員間で把握出来る体制の構築は、コメントから出来ていない様子が伺える。先ずは担当教員自ら、機器の把握と管理体制の重要性を理解しなければ、それに直結する授業の充実もありないと判断する。「学生が満足する授業構造」の第一歩として考えて欲しい。 ●本校の教室等利用計画は、余裕ある教室を有効活用して教材・教具を常設した実習教室構造を考えているが、未だに1年生に1教室（二輪実習室）しか設置出来ていない。先ずは雑多となっている実習場の教材・機器の整理・整頓・廃棄を行い、徹底した管理体制のもと、電装実習教室を次年度こそ設置したい。
						結果の考察・分析及び改善策 AO教室の整理整頓は行なっているが、各学年の教材準備室の充実が認めていない。実習場については判断できない。 BO気が付いた時は、必要に応じ車両修復やベンチエンジン修復を行なった。 ○備品については、使用後未返却のものが多い。後片付けを徹底していかたい。 CO実習場での機器・備品の把握を行う為の整理整頓に気を配るように意識を向けて下さい。 ○補修等の報告は行なっているが経過の把握を行なう。 DO授業で使用した物の管理のみとなってしまっている。 ○補修などが云々のまゝとなっており、改修への協力まで至っていない。 EO教室は常に整理整頓に心掛けている。またロッカーが別室にある為、意識し清掃を行なうようにしている。 ○実習場での取り扱いが、教員同士うまくいかない部分が多い。教員間のカリキュラムの把握や声かけ不足を感じる。 FO使用した機器類は清掃を行い、破損しているものに関しては修理を行なった。
						自己評価総合的な課題・今後の改善策 ●やはり機器・備品購入の要望が年度末に行われている。学生への還元を主に考え、必要なものを即時又は計画的に予算要求時には蓄積できているシステムづくりが必要と感じる。「目指す授業」「やりたい授業」を根本から見直せば、先生方からの要望はかなり出てくるはず。その中から優先順位を付けるなど工夫願いたい。「選ばれる自動車工学科」となるために。
						●実習場の機械・機器・工具の点検・改修・補充を行なった。教育環境の維持に繋がっているが、管理が徹底しているとは言いがたい。学生の夏季休暇中に統一した管理時間を設定する。
						結果の考察・分析及び改善策 AO科目担当者として、必要な機器・教材については常に要望を行なっている。今後、学生募集に関する内容も考慮した機器・教材の購入も要望して下さい。 BO使用出来ないテスターなどを見られる。備品整理時に何が不足しているのか把握が必要。 ○新技術に対応した機器の要望は行った。新技術が学べる教材を増やしていかたい。 CO今年度は要望について消極的であった。学生の環境整備の観点からも次年度は意識を高めて行動をする。 ○年度末に向けて教材の見直しを考える。 ○教材の見直しの提案ができていない。 EO現在ある機器・備品での授業を行なっているため、多くの情報を収集し、積極的に要望を行なっていく必要がある。 FO現代のエンジンを使用しての授業を行なうため寄贈エンジンの使用を要望した。 ○今後に向け整備要領書等の準備を行う。
						学校関係者評価 ご意見・アドバイス等
						学校関係者評価まとめ
						●教材・教育機器・機械工具は、養成施設にとって大変重要な物。しかしそれらの品質は、保有数よりもはるかに重要（規定に抵触しない範囲で）。学生が興味を示す物は「不動」ではなく「実動」する物、さらに「欠損品」ではなく「完全品」である。先ずそのことを判断基準に「譲渡」の見直しを図り、生きた教材・機器類の補完を急ぎ実践する。また、この内容は、企業との連携も必要な箇所である。

令和2年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価 3（評価委員コメント記載 及びまとめ）

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	自己評価総合的な課題・今後の改善策					
		<p>○学生募集活動を積極的に行っているか</p> <p>○募集定員を確保できるように全教職員で取り組む。</p>	<p>◎担当地区の募集目標を達成できたか。</p> <p>◎担当校に特化したオリジナル資料を作成して募集活動を行ったか。</p>	<p>令和元年度 B(2.8)</p> <p>令和2年度 B (2.6)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●現在、定員目標に対して78%の充足率（39名の入学手続き）【担当教員内訳】 充足率が 80%以上：2名、70%以上：1名、60%以上：1名、30%以上：2名、それ以下：1名の状況であり、前年比92.8%と前年より3名不足している。前年には並びたい。 今年度の特徴は、既卒者は4名（NGH：1名、宮工：2名、都工：1名）と複数の受験があったこと（昨年度は1名）。 また複数名出願頂けた高校は、宮工：2名、海洋：2名、鶴翔：3名、NGH：14名、佐土原：2名と昨年度と同様の6校であった。特筆すべきは、佐土原高校が2年の欠格期間を空けて、小林秀峰高校が3年の欠格期間を空けて、更には都城工業高校が4年の欠格期間を空けて出願があったことは、中原校長先生のご尽力によるものと判断する。 ●今年度、担当地区・担当校の見直しをもつて前半は戸惑った面もあったが、後半、安定した訪問をされ実績を出される先生や次年度に向けての確実な準備をされる先生など様々ではあるが、実際の訪問実績は来年度だと感じている。（今年度は、前担当者の実績もあると思う。）募集に対する意識改革「他力ではなく自力で」の温度差を未だに感じる面がある。 					
						結果の考察・分析及び改善策					
						<p>△○募集活動は積極的に行っているが、あと1名不足して目標達成に至っていない。しかし、今回の実績は前任者の種まきのお陰と考えている。オリジナル資料の準備・発案を行い、毎回の訪問のポイントとしている。</p> <p>BO先生のご協力により目標数値に近づける事が出来た。</p> <p>OOOに参加の生徒写真や在校生の動画などを待参した。</p> <p>CO他の先生方を参考にさせていただき、試行錯誤をしながら活動を行ったが、実績が出ていない反省をしている。</p> <p>DO自身の設定した目標には、到達できていないが追加で募集強化を行っている学校からの応募も出ている。</p> <p>OO資料の作成や見直しなど常に心掛けている。</p> <p>EO昨年に引き続き達成できていない。しかし、重点校の先生より相談を受ける機会が増加した。情報発信を継続するとともにより多くの情報を担当校へあった形で伝えていく。</p> <p>FO募集目標数値は達成できなかつたが、進路変更者を獲得することができた。</p> <p>OO資料作成はできていない為、今後情報収集などに努める。</p>					
5. 学生募集		<p>○学生募集活動において、教育活動成果を適切に対象校担当者に伝えていくか</p> <p>○高校訪問を常に意識して情報発信を心がける。</p>	<p>◎担当の重点校には、毎回面談頂けるMUCファンの先生がいるか。</p> <p>◎決められた情報提供に終わらず、高校毎の特色を考慮しプラスαとなる情報提供を行ったか。</p>	<p>令和元年度 B(2.7)</p> <p>令和2年度 B (2.8)</p>	<p>令和元年度 B(2.7)</p> <p>令和2年度 B (2.8)</p>	<p>自己評価総合的な課題・今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本校を支援して下さる各高校の先生方が居られるからこそ今年度の成果に繋がっている。その各高校の先生方との接点は、担当されている本校教員であり前年比92.8%の募集実績は、本校教員の弛まぬ地道な取り組みの成果が継続されているを感じる。 ●外部の学生募集は、内部が充実しているからこそ成果が出ると感じる。そのためにも、内部を充実させる教職員、外部でその情報を確実に提供して学生募集につなげる教職員に編成することも必要な現状がある。少しでも成果が見込める募集体制の構築を即検討する。 ●募集の打合せ会で、企画広報部へ全教員から「提案・要望」ができる募集意識の活性化を図りたい。 					
						結果の考察・分析及び改善策					
学校関係者評価 ご意見・アドバイス等						<p>△○学生募集に関しては、企業にも今まで以上に応援を要請してもいいと思います。業界全体で取り組む課題だと思います。</p> <p>○先生方は、我々の母校のため頑張っておられます。その「熱意」がすべてに波及して、良い結果に繋続連鎖しています。我々も協力します。</p>					
学校関係者評価まとめ						<p>●学生募集に関しては、宮崎県の自動車整備士養成の基幹養成施設であり、それは自他共に認知されてしかるべき現状がある。よって、宮崎県の自動車整備士養成は、宮崎県の自動車業界全体で取り組むべき課題であり、学校は今まで以上に企業に応援要請をするべきだと感じている。</p> <p>●学生募集については、先生方の「熱意」がすべてに波及しての成果だと感じている。後援会・同窓会も連携して応援したい。</p>					

※授業評価は4段階評価です。よって最高評価は4.00です。

■ 評価の基準は、 A (4) :期待以上、 B (3) :ほぼ期待通り、 C (2) :やや期待を下回る、 D (1) :改善を要する